



19 佐道建第 44 号  
平成 19 年 4 月 26 日

国土交通省  
道路局長 宮 田 年 耕 様

佐倉市長 渡 貫 博 孝



中期的な計画の策定にあたっての意見の提出について (回答)

貴職におかれましては、佐倉市の道路行政に対しましてご理解、ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

平成 19 年 4 月 2 日付け国道企第 114 号で依頼のありました標記の件について、下記のとおり回答いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

記

1. 今後の道路政策や道路の整備・管理についての意見

① 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

- ・千葉県内では、首都圏中央自動車連絡道や北千葉道路等の整備が進み、国道 51 号 (北千葉・成田) 拡幅などの国直轄の国道整備も推進されているところである。

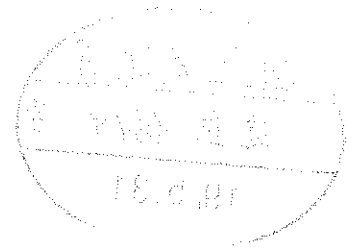
これらの道路整備に伴い、東関東自動車道の重要性も一層高まる中で、それにアクセスする地方道路の整備も急がれるところである。

しかしながら、県道や市町村道整備については、近年の厳しい財政状況の中で、進捗に鈍化が目立っている状況である。

また、本市では都市計画道路が計画決定後 40 年近い年数が経過している中、整備率が 55% と低迷している実態もある。

したがって、このような実情を踏まえ、県道、市町村道整備に対する、道路財源確保について、なお一層のご尽力を要望するものである。

更に、佐倉市にとって最も大きな影響力を持つ、国道 51 号佐倉市区間の 4 車線拡幅整備促進を強く要望するものである。



② 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

- ・道路の点検診断を行い、適切な維持管理による道路の長寿命化、整備コストの低減を図るアセットマネジメントの導入。
- ・補助金、交付金制度における更なる事務の簡素化。

③ その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

- ・首都圏の放射状道路を結ぶ東京外かく環状道路、首都圏中央連絡自動車道の整備促進。東関東自動車道水戸線の茨城県水戸市までの整備促進。
- ・国道296号の歩道整備促進。
- ・従来の道路整備は車道優先であったが、これを歩道、自転車道優先の道路への政策転換。
- ・幹線道路整備の立ち遅れから、通行車両の生活道路への流入が市内各所で問題となっている。

これを防止する方法として、車道幅員を狭め自動車交通量を抑制する構造（例一車道のセンターラインを取り除き歩道スペースを確保する）とすることが有効と考えられているが、そのための道路構造令の一部見直しが必要である。

- ・土木インフラ等に対するアセットマネジメントの導入に向け、国が中心となり、診断基準の全国一律化や修繕のための財源確保など、新たな制度化が必要である。